

自律性の支援に向けたピア・ラーニングの実践と意義

I. 実践概要

■クラス概要

- ・韓国のE大学校「視聴覚日本語」のクラス(1コマ75分、週2回)、2011年度2学期(9月～12月の15週)
- ・中級後半レベルの韓国語母語話者(全19人)、「日本言語文化連係専攻」の複数・副専攻者
- ・多様なトピックのテキストと関連映像を使用

■教科目標

- ・長い文章の読解力、色々な情報を聞き取るための聴解力などの受容能力を伸ばす。
- ・意見を言う、聞く、説明する、調整するなどのやりとりができる。
- ・作文、発表などの産出能力を養う。

■授業実践の目的

- ・ピア・ラーニング(協働学習)に「慣れる→分かる→できる」こと→自律性の支援
 - 各トピックと関連する6回のピア活動(表1の①～⑥)を経験しながらピア・ラーニングに慣れる。
 - ピア・ラーニングの概念や意義などの意識化を図ったメタ・ピア活動(⑦)を通して、そのやり方や意味が分かる。
 - 内省的ピア活動(⑧)によって名実相伴うピア・ラーニングができる。

<表1> トピックとピア活動の概要

『コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語－上級へのとびら』の一部

トピック	ピア活動の概要
1. 日本のスピーチ・スタイル	① みんなでドラマを見る →グループで「登場人物のスピーチ・レベルの使い分け」、「スピーチ・スタイル」について話し合い、活動シートに作成する →発表する(各グループに一人)
2. 日本のテクノロジー	② みんなでロボット関連映像を見る →グループで「ほしいロボット(ロボットの名前、ほしい理由、仕事の内容・操作方法、色・形など)」について話し合い、活動シートに作成する →発表する(各グループに一人)
3. 日本人と宗教	③ みんなで「グラフを使って発表する」やり方を確認する →グループ毎に与えられたグラフをもとに話し合い、発表原稿を作成する →グラフを見ながら発表する(各グループに一人)
4. 日本の食べ物	④ みんなで新商品(エコな食べ物)を紹介する番組を見る →各自商品の特徴や感想などを聞き取り、グループで答え合わせをする →グループ毎に最もエコな商品とその理由について話し合う →発表する(各グループに一人) ⑤ みんなで活動シートを読み、内容を予測してから映像を見る →グループ毎に聞き取った内容を確認し、映像を見た感想やおもしろい点、食品の製造工場を海外に移転することの長・短所について話し合う →発表する(各グループに一人)
5. 日本のポップ・カルチャー	⑥ みんなに順不同の「手塚治虫の一生」の絵を提示する →グループで話し合い、絵を並べ替える →各グループの答えを発表する →みんなで「手塚治虫の一生」の映像を見て、正しい順番を確認する
	資料1 ピア・ラーニングとは？ 概念や意義、内省の重要性
	⑦ グループで「いいピア活動とは何か」について話し合う →ピア活動において重要で必要な項目を書き、ボードに貼りながら分類する →「～できる」の形で評価項目との連携を図る

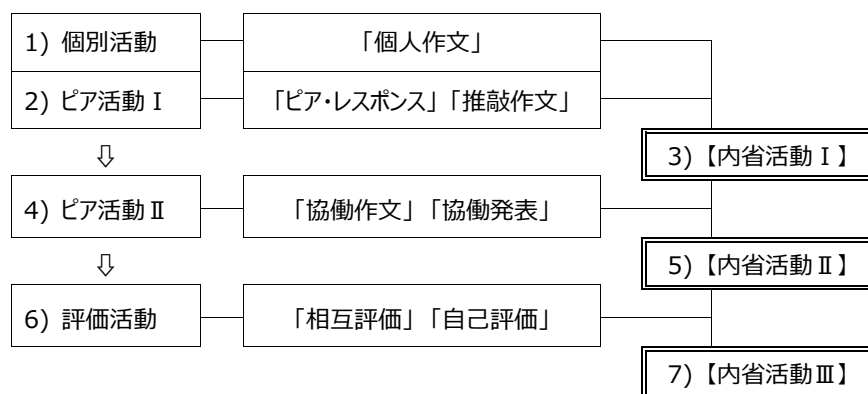
6. 日本の伝統芸能	資料 2 【内省的ピア活動】
	⑧ みんなで「ストーリーを紹介する」やり方を確認する
	→各自、絵をヒントに「赤ずきんちゃん」のストーリーを作る(「個人作文」)
	→グループで作文を交換して読み、コメントし合う(「ピアレスポンス」)
	→各自、ピアのコメントを取り入れて作文を修正して提出する(「推敲作文」)…【内省 1】
	→グループで新しい物語を決め、ストーリーを作る(「協働作文」)、ストーリーを紹介するための PPT を作成する →グループでストーリーを紹介する発表を行う(「協働発表」) …【内省 2】 →互いの発表について評価する(「相互評価」「自己評価」) …【内省 3】

■内省的ピア活動の流れ

- ・個別活動とピア活動を通して協働で物語を決め、ストーリーを書き上げて発表し、評価をも行う活動。

これらのプロセスを振り返る内省活動を並行。

<図 1> 内省的ピア活動の流れ



1) 個別活動： 個々の学習者は『赤ずきんちゃん』のあらすじの絵をヒントにしてストーリーを考え、「個人作文」を書く。**資料 3**

2) ピア活動 I： 3～4 人ずつグループを作り、学習者同士がお互い書いてきたものをもとに書き手と読み手の立場を交替しながら意見や感想などを話し合うことによって、多様な視覚を与えたり気づかせてくれたりする「ピア・レスポンス」を行う。その後、個々の学習者はピアのコメントを取り入れて自分の作文を見直し、「推敲作文」を書き上げる。

4) ピア活動 II： 前回と同じ構成員のグループごとに、各々持ち寄ったアイデアを出し合って物語を決め、ストーリーを作り出し、「協働作文」を書き上げる。また、ストーリーに基づいて PPT を作成し、発表練習を重ねた後、全員の前で「協働発表」を行う。**資料 5**

6) 評価活動： 各グループの発表について学習者同士の「相互評価」として、5 項目（分かりやすさ・おもしろさ・PPT の効果度・発表態度・協働性）につき 4 段階尺度評価を行い、自由記述式のコメントを書く。次回の授業では、グループごとに自分達の発表を録音したものを聞きながら他者評価（相互評価と教師評価）を踏まえつつ、同方式で「自己評価」を行う。また、ピア活動 II の全体を自己評価する 3 項目（相互確認・相互調整・協働性）につき、自分がどのぐらい「できる」かを評価し、コメントを書く。**資料 7,8,9**

3)【内省活動 I】： ピア活動 I の過程を振り返り、その経験を吟味することで学習成果や課題への気づきを促し、学習改善を図ろうとする活動である。内省シート I に活動への参加度、活動の内容、活動を通して習ったことや改善すべきこと、感想や意見などを書く。**資料 4**

5)【内省活動 II】： ピア活動 I の学習成果と課題を念頭に置きながら、ピア活動 II の過程を振り返って成果や課題への気づきを促し、学習改善を図ろうとするものである。内省シート II には、I と同様の項目に加え、前回のピア活動 I に比べて変わったり改善されたことを書く。**資料 6**

7)【内省活動 III】： 評価活動の過程を振り返り、活動を通して得られた成果や課題への気づきを促し、学習改善を図ろうとするものである。内省シート III には、I・II と同様の項目に加え、ピア活動の意義や長・短所などの意見を書く。**資料 10**

II. 内省的ピア活動の内省分析

■研究目的と課題

- ・日本語教育におけるピア・ラーニングの実践例をもとに、内省的ピア活動による自律性の支援拡大の可能性について論じる。
- ーピア活動ⅠⅡⅢを通して得られた内省記録をカテゴリー化し、学習ストラテジーへの気づきの様相を探る。
- ーピア活動によって内省カテゴリーの現れに変化があるかどうかを調べ、ピア活動間の相補的關係を検討する。

■分析

1. 内省記録に見られる内省カテゴリーと学習ストラテジーへの気づき

学習者がピア活動における内省過程で、何に注目して学習成果と捉えているかを帰納的に分析し、内省のカテゴリー化を行った。その結果、20の内省内容とその類似性によってまとめられた7つの内省カテゴリーが見出せた。

内省カテゴリーから学習ストラテジーへの気づきを調べた結果、メタ認知・社会的・情意ストラテジーのような間接ストラテジーへの気づきが見られた。間接ストラテジーは言語学習を支えるもので、学習自体をどう管理していくかに関するストラテジーである。【メタ認知ストラテジー】は学習の位置づけ・順序立て・計画・評価などで学習過程を調整するために使われ、【社会的ストラテジー】は他人とのコミュニケーションを通して学習していくことを助け、【情意ストラテジー】は学習態度や感情の要因を調整するのに役立つとされる。このような間接ストラテジーは、学習を効果的に進めるために学習環境の中から学習に役立つものを選択して使う様々な操作のことで、自律的学習を助けるものとして知られている。したがって、ピア活動の内省に学習ストラテジーへの気づきがあり、その気づきが学習ストラテジー養成の第一歩になるとの知見を踏まえれば、今回の内省分析から自律的学習能力の促進可能性の肯定的証拠を得ることができ、学習者の自律性の支援に向けたピア活動の有効性が実証されたと言えよう。

<表2> 内省と学習(間接)ストラテジーとの関わり

内省		学習(間接)ストラテジー
内省内容	内省カテゴリー	
a. 自己反省、自己の問題点の把握	① 自己認知	【メタ認知ストラテジー】 ・ 自己の学習をきちんと評価する : 自己モニター、自己評価をする ・ 自分の学習を順序立て計画する : 自己の学習の進歩を把握する、 目標達成のため計画を立てる
b. 自己の考えや長短の客観化		
c. 自己成長、思考の拡大・深化		
a. 日本語能力の向上	② 日本語学習・知識獲得	
b. 知識や情報の拡大・深化		
a. 作文の質の向上	③ 課題遂行への援助	
b. 発表の具体化、効率性や完成度の向上		
a. 他者の考えや視点の理解	④ 他者認知	【社会的ストラテジー】 ・ 質問をする : 訂正してもらう ・ 他者へ感情移入をする : 他の人の考え方や感情を知る ・ 他者と協力する : 学習者同士が協力する
b. 多様な観点の発見		
a. 意見調整による最善案の創出可能性	⑤ 自他の関係性への認識	
b. コミュニケーションの難しさ・大事さ		
c. 役割分担の重要性		
d. フィードバックの必要性・効果		
a. 人間関係構築の可能性	⑥ 社会性の養成への認識	
b. 協力や協働の意味づけ		
a. 活動の楽しさ	⑦ 態度・感情の変化への認識	【情意ストラテジー】 ・ 自己の感情をきちんと把握する ・ 自分の不安を軽減する ・ 自分を勇気づける
b. 緊張感の緩和		
c. 動機づけ、勇気づけ		
d. 責任感、積極的な参加		
e. 他者への配慮		

2. 内省的ピア活動間の相補的關係

内省活動ⅠⅡⅢは、ピア活動の過程を振り返り、その経験を吟味することで学習成果や課題への気づきを促し、学習改善を図ろうとした点で共通している。しかしながら、ピア活動の課題内容や目標が違えば、当然その内省も変わり得る。これを確かめるべく、各ピア活動による内省カテゴリーの出現様相を調べ、その異同を探った。

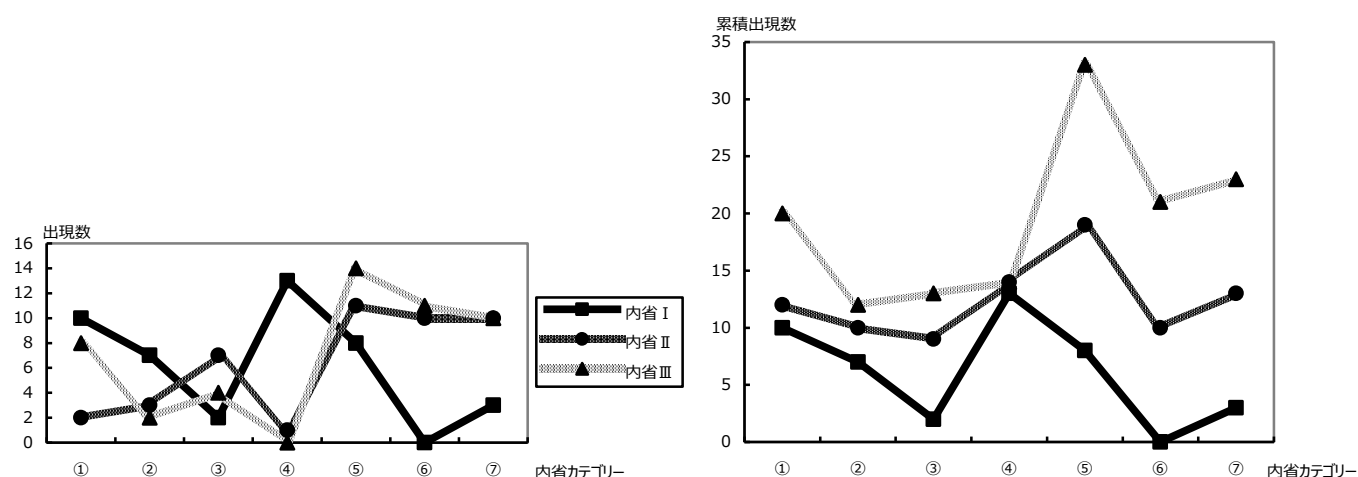
【内省活動Ⅰ】の内省では、＜④他者認知＞や＜①自己認知＞が最も多く見られ、ピア活動を通して他者の視点を発見・理解でき、他者の指摘や意見によって自己の問題点が把握できたり自己の考えや長短が客観的に見られるようになったりして、一人では考えられなかったことについてより広く考えられるようになったことを成果として挙げている。と同時に、他者からのフィードバックが必要かつ有効であるとしながら、他者に自己の考えや意見を伝えることの難しさを感じられるといった＜⑤自他の関係性への認識＞も多く見られる。さらに、日本語の語彙や表現などの日本語能力および知識が得られるとした＜②日本語学習・知識獲得＞も多く挙げられている。【内省活動Ⅱ】の内省では、内省Ⅰと同様に＜⑤自他の関係性への認識＞が多く、ピア活動を通して意見を調整することでよりよい案が得られるとし、協働作業における役割分担と責任完遂が大事であることが分かったとしている。また、ピア活動の経験が人間関係の形成や構築に役立つと思い、協力や協働の価値・意味について改めて認識するようになったとする＜⑥社会性の養成への認識＞が多々見られ、活動を楽しみながら積極的に参加するようになり、活動を重ねているうちに緊張の度合いが低くなってきたとする＜⑦態度・感情の変化への認識＞も多く挙げられている。加えて、自己発信と他者受容の過程を経て協働作文の質がよくなり、発表が具体的に進められて完成度が上がったとする＜③課題遂行への援助＞が挙げられる。【内省活動Ⅲ】でも、内省Ⅰ・Ⅱと同様、＜⑤自他の関係性への認識＞が最も多く挙げられている。また、内省Ⅱのように＜⑥社会性の養成への認識＞と＜⑦態度・感情の変化への認識＞が多く、内省Ⅰで多く挙げられた＜①自己認知＞も多々見られる。

<表3> 内省活動別に見た各学習者の内省と学習(間接)ストラテジーへの気づき

学習者	内省Ⅰ 「ピアレスポンス」 「推敲作文」	内省Ⅱ 「協働作文」 「協働発表」	内省Ⅲ 「相互評価」 「自己評価」	内省Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 学習(間接)ストラテジー 【メタ認知】【社会的】【情意】
#1	② ④ ⑦	③ ⑤⑥	① ⑤ ⑦	①②③ ④⑤⑥ ⑦
#2	①② ④	② ⑤⑥	① ⑤	①② ④⑤⑥
#3	② ⑦	⑥⑦	② ⑤⑥⑦	② ⑤⑥ ⑦
#4	①② ⑤	③	① ⑤ ⑦	①②③ ⑤ ⑦
#5	③④	⑤⑥⑦	① ⑤⑥	① ③ ④⑤⑥ ⑦
#6	① ④⑤ ⑦	③ ⑥	③ ⑤⑥	① ③ ④⑤⑥ ⑦
#7	①② ④⑤	③ ⑤ ⑦	⑤ ⑦	①②③ ④⑤ ⑦
#8	①② ⑤	③ ⑤⑥	③ ⑤⑥	①②③ ⑤⑥
#9	④⑤	③④⑤	① ⑤⑥	① ③ ④⑤⑥
#10	① ④	② ⑤ ⑦	① ③	①②③ ④⑤ ⑦
#11	① ④	③ ⑥	①	① ③ ④ ⑥
#12	④	⑤	⑥⑦	④⑤⑥ ⑦
#13	⑤	未提出	② ⑥⑦	② ⑤⑥ ⑦
#14	未提出	① ⑥⑦	③ ⑤ ⑦	① ③ ⑤⑥ ⑦
#15	①	② ⑦	① ⑤	①② ⑤ ⑦
#16	② ④	① ⑦	⑥⑦	①② ④ ⑥ ⑦
#17	③④	⑤⑥⑦	⑤⑥	③ ④⑤⑥ ⑦
#18	① ④⑤	⑤⑥⑦	⑤⑥⑦	① ④⑤⑥ ⑦
#19	① ④⑤	⑤ ⑦	⑤⑥⑦	① ④⑤⑥ ⑦
	10/7/2/ 13/8/0/ 3	2/3/7/ 1/11/10/ 10	8/2/4/ 0/14/11/ 10	

上記の結果をもとに、内省的ピア活動ⅠⅡⅢの相補的關係について述べる。内省ⅠとⅡの間では、⑤を除く他のカテゴリーに相反する傾向が見られる。内省Ⅰには④①⑤②が多く、内省Ⅱには⑤⑥⑦③が多く挙げられていることから、ピア活動Ⅰとともにピア活動Ⅱを行うことで、それぞれの内省に足りないところが補完でき、内省の幅が広がる可能性がうかがえる。内省ⅠとⅢにおいても、④②と⑦⑥のカテゴリーに同様の傾向が見られる。内省ⅡとⅢにはわりと類似した出現様相を呈するが、③①には補完の可能性が見られる。このように、ピア活動ⅠⅡⅢには多かれ少なかれ相補的關係にあることが分かる。これは、内省活動別に見た内省カテゴリーの累積出現数(図2)および各学習者の学習ストラテジーへの気づきの様相(表3)からも見て取れる。つまり、異質のピア活動を組み合わせたピア・ラーニングを通して、学習者により多様な内省の場を提供することができ、その分学習ストラテジーへの気づきが拡大されるとしたら、自律性の支援可能性も高まるということになる。

<図2> 内省活動別に見た内省カテゴリーの出現数および累積出現数



◎ 授業実践および内省の分析について、お気づきの点やご意見などありましたら、よろしくお願い致します。

Ⅲ. 質疑・応答

- ・ 図2の右図の見方

→一番下の線：内省活動Ⅰ、真ん中の線：内省活動Ⅰ＋Ⅱ、
一番上の線：内省活動Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲに見られる内省カテゴリー

- ・ ピア活動Ⅰ、Ⅱは同時に行われる活動か。

→順次に行われる活動。

- ・ 内省シートにおける学習者の記入が詳細かつ具体的であるが、それができるようにするコツはあるか。

→「内省」することの意味ややり方について十分な説明と例を提供し、学習者にその意義を納得させた上で実施することが大事であると思われる。

- ・ 今後の課題

→まだ分析の途中であるため、分析結果の考察をさらに深めていきたい。

1 デジタルストーリーテリングとは

デジタルストーリーテリング(以下DSTとする)は、デジタル機器を利用して画像(写真・動画・絵等)を制作者のナラティブ(語り)でつなげて発表することである。伝えたい内容を、画像と語りをコラボレーションさせながら短い映像ストーリーに作り上げる。さらに、映像にデジタル的な視覚効果やBGMを加えることで、印象的で個性的な作品にすることもできる。

2 韓日異文化学習におけるデジタルストーリーテリングの導入

2011年度2学期の講座「韓日ストーリーテリング」で韓日異文化をテーマに協働学習形態でDST制作を行った。(学習者27人〈韓国人18人、日本人4人、中国人4人〉→ 3(人)×9グループ)

3 異文化学習にDSTの協働制作を導入する効果と問題点

DST制作は「活動A～C」から成り立っている。

活動

- A: 協働して異文化を理解する(話し合いでテーマ・内容を決定する)。
- B: DSTで異文化を表現する(異文化ストーリーをナラティブと映像で繋ぐ)。
- C: 協働してDSTを制作する(ナラティブ・映像を効果的に編集する)。

1) アンケート調査に見られる制作過程の効果と問題点

① 協働して異文化を考える」効果と問題点

「協働して異文化を考える」活動に関しては、協働して考えることが新しい発見を生じさせ、他の学習者との意見交換によりスムーズに内容を整理することができ、しかも楽しい活動であると評価している学習者がかなり多いことがわかった。しかし、結果へのストレスを低く抑える効果は期待した程高くはなかった。

② 「DSTで異文化を表現する」効果と問題点

76%の学習者が異文化ストーリーをナラティブで印象的に表現できたと感じている。映像技術を駆使して異文化を効果的に表現できたかについては肯定的な意見が60%である。一方、発表を前提とした共感を得られる作品作りに関心を向けていたのは52%にとどまった。また、どの項目についても肯否定を保留する「普通だ」の回答が「協働して異文化を考える」活動 より多くなっている。

③ 「協働してDSTを制作する」効果と問題点

協働してナラティブ・ストーリーを制作・編集し、映像効果を駆使できたと感じている学習者が相対的に多い。また協働により楽しい作品作りができたと感じている割合も68%である。一方、結果に対するストレスが減少したとは感じていない学習者が24%存在する。また「協働して異文化を考える」、「DSTで異文化を表現する」活動 に比べ否定派が若干多くなっている。

④ DST製作上の具体的な困難

- ・著作権に抵触しない素材の収集・・・9件
- ・時間が不足・・・5件
- ・コンピュータ運用能力・・・5件(運用が困難：3件、他のメンバーが運用能力不足：2件)
- ・ひとりで制作した方がいい・・・1件
- ・撮影の経験不足・・・1件
- ・録音室の使用時間・・・1件（使用可能な時間に制限があった）
- ・作業が多い・・・1件
- ・制作方法を忘れた・・・1件
- ・わざわざDSTを製作する必要があるのか・・・1件
- ・コンピューターの誤作動で画像を消失・・・1件
- ・意見の不一致・・・1件

2) 作品に見られる異文化理解過程の効果と問題点

完成した9作品中、6作品は異文化体験の過程をストーリーにしたもの、残りの3作品は韓日文化を対照したものである。須田(2004)の異文化に遭遇した時点からの感情の適応段階（1. 否定 2. 防衛 3. 最小化 4. 受容 5. 適応 6. 統合）を参考にする。異文化体験を描いた6作品では、異文化適応の発達段階とそこに至る過程を自発的に描き出している点が評価できる点だ。異文化のどの点に衝撃を受け当惑したか、違和感のある行動様式を客観視できるようになっていく過程、さらに相手文化に合わせて行動できるよう変化していく過程を体験とシミュレーションを通してリアルに描いているからだ。ストーリーで扱われている感情がより高い適応段階に到達している作品程、評価(印象度)が高いという傾向があった。また異文化に対処すべき姿勢として「尊重」「判断保留」「異なりを楽しむ」「自文化中心的視覚排除」が重要であることをメッセージとして提示している点がさらに評価できる点だ。このようにDST制作過程では、与えられる情報を受容する授業からだけでは得られない能動的な異文化理解過程を経ていることがわかる。

韓日文化を対照するストーリーの3作品中2作品は、韓国人と日本人の立場で互いに自文化を紹介する構成になっている。2作品に共通する特徴は、2人の中国人留学生が韓国人を、2人の韓国人学生が日本人を演じている点だ。異文化を外から眺め語るにより、自文化からは見えにくい特徴が客観的に描かれている点が評価できる。

一方、改善すべき点も見受けられる。異文化体験を描いたF作品とI作品は異文化適応段階が「防衛」にとどまっており、異文化習慣に適応できず困惑している状態でストーリーが終わっているからだ。F, I, G作品への学習者の評価も6、7、9位(9作品中)という低い順位となった。

3) 鑑賞における異文化理解過程の効果

学習者が制作者の立場から「協働して異文化を考える」「DSTで異文化を表現する」「協働してDSTを制作する」効果を評価した以上に、「他の作品を鑑賞する」ことにおける肯定的評価が大きいことは注目に値する。「DSTで異文化を表現する」や「協働してDSTを制作する」ことに否定的であった5人の学習者においてさえ、鑑賞においてはDSTを肯定的に評価している。DST制作による異文化理解は制作する側のみならず、鑑賞する側に新しい発見を促し共感帯を造成する。このように、作品の鑑賞を通して新しい情報や観点を共有していくDST作品の鑑賞は、ひとつの大きな協働学習の場であると言える。

4 まとめ

異文化理解におけるDST制作の効力と問題点を次のように整理できる。

[効力]

- 1) 「協働して異文化を考える」と新しい発見があり、楽しく内容を整理できる。
- 2) 「DSTで異文化を表現する」とストーリーをナラティブと映像技術で効果的に表現できる。
- 3) 「協働してDSTを制作する」と協働して楽しく制作・編集できる。
- 4) 異文化体験やシミュレーションによるストーリー制作は、異文化適応の発達段階と過程を能動的に描き出し、自発的にメッセージとして提示する場合が多い。
- 5) 異文化を外から眺め語ることにより、自文化からは見えにくい特徴を客観的に理解できる。
- 6) 「他の作品を鑑賞する」と新しい発見を含む豊富な異文化知識が得られ、共感を感じる多くの内容に出会う。
また、映像技術の活用とストーリーテリングが印象的な伝達を促進することを理解できる。

[問題点]

- 7) 著作権に抵触しない材料収集に手間とアイデアが要される。
- 8) コンピュータ運用能力の差によりDST制作過程で協働が実現できない場合がある。
- 9) 作品の評価を成績に反映する場合、制作過程におけるストレスを十分に軽減できない。
- 10) ストーリーを共有するという鑑賞の目的が理解できていないと、共感度の低い作品が制作される場合がある。

日本語現地会話 授業計画書

授業名	担当講師名	講座開講日
日本語現地会話	大田祥江	2012年度2学期
到達目標	<p>1) 自分自身や家族、趣味などに関して、人に説明したり質問したりすることができる。</p> <p>2) 店員に確認しながら買い物をしたり、食事を注文することができる。</p> <p>3) 公共交通機関を利用して移動したり、目的地への行き方について、短い簡単な言葉で人に質問したり、説明したりすることができる。</p> <p>4) 休日暇かどうか友人にたずねたり、答えたりすることができる。</p> <p>5) 旅行の計画を立てたり、予約したりすることができる。</p> <p>6) 身体の調子が悪い時に症状を病院で説明したり、薬局で薬をもらって説明を聞くことができる。</p>	
内容	<p>この授業では、大きく分けて以下の5つのトピックについて学び、日本語での会話力を高めます。</p> <p>①自己紹介 (2回) 初対面の相手と仕事や家族構成、趣味などについて情報を交換します。</p> <p>②買い物 (3回) デパートなどで買い物をする時や、レストランで食事を注文する時など、客として店を訪れる時に必要な言い回し、また、店員側として必要な言い回しを学びます。</p> <p>③公共交通機関を利用した移動 (2回) 地下鉄やバス、タクシーなど、公共交通機関を利用する際の移動に必要なフレーズを学びます。</p> <p>④約束する (2回) 休日暇かどうか友人に尋ねて約束をしたり、予定を変更・キャンセルする言い方を学びます。</p> <p>⑤旅行 (2回) 友人と旅行を計画したり、実際に旅行に行き現地が必要な言い回しを学びます。</p> <p>⑥健康 (2回) 身体の調子が悪い時に症状を病院で説明したり、薬局で薬をもらって説明を聞くことができるよう、必要な単語やフレーズを学びます。</p>	
参考教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 이나가와유키他(2012) 『타노시가 일본어회화 1』 넥서스 ・ 야마우치히로유키 『일본어회화 둘째고비 쉽게넘기 Roleplay』 시사일본어 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間試験 (50%) ・ 期末試験 (50%) 	

<授業計画>

	撮影月日	授業内容
1	7月中	自己紹介1 初対面の人に自己紹介をする
2	7月中	自己紹介2 初対面の人に趣味を聞いたり共通点を探す
3	未定	買い物1 デパートで探しているものについて説明したり、クレームを言う
4	未定	買い物2 どのレストランに入るか友達と決める
5	未定	買い物3 レストランで食べたいものを注文する
6	未定	公共交通機関を利用した移動1 地下鉄や電車、バス、タクシーなどの公共交通機関に乗る
7	未定	公共交通機関を利用した移動2 歩きながら道を尋ねる
8	未定	中間試験
9	未定	約束する1 人を誘ったり、言い訳をする
10	未定	約束する2 約束を変更したり、キャンセルをする
11	未定	旅行1 旅行の計画を立て、予約する
12	未定	旅行2 旅行先で観光名所に入ったり、お土産を買う
13	未定	健康1 病気の症状を説明する
14	未定	健康2 薬局で薬をもらう/お見舞いに行く
15	未定	期末試験